

高精細カラー版 原本を体感！ 研究を一気に進める新シリーズ

新 天理 図書館 善本叢書

第二期

古辞書 全六巻

2016年 4月刊行開始

内容見本

八木書店 YAGI BOOK STORE LTD.

古辞書の精髓を机上に！ 平安末から鎌倉時代の古写本五点

〔国宝〕鎌倉末期写 〔第9巻・第10巻・第11巻〕

類聚名義抄

観智院本

〔重要文化財〕平安末期写 〔第7巻〕

和名類聚抄

高山寺本

〔重要文化財〕鎌倉初期写 〔第8巻〕

三宝類字集

高山寺本

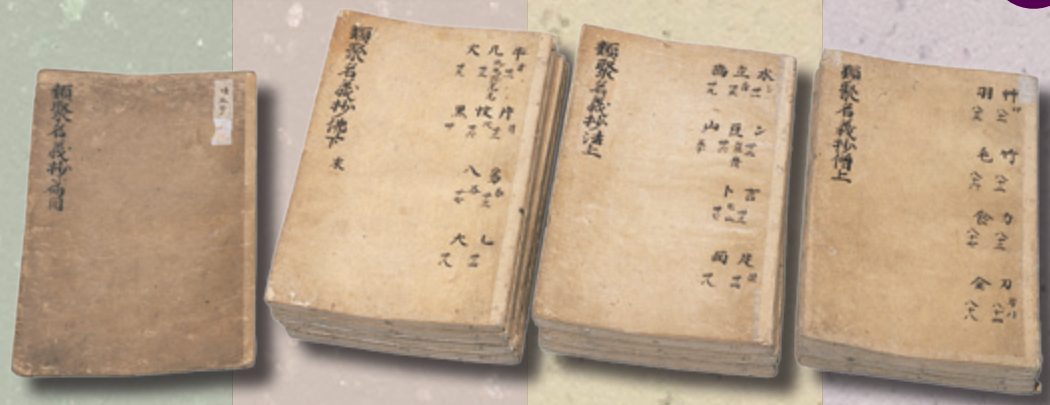
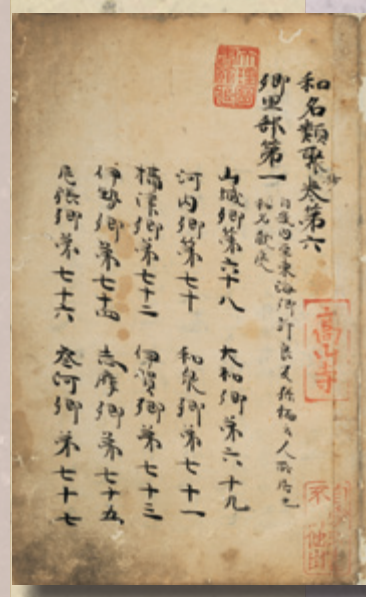
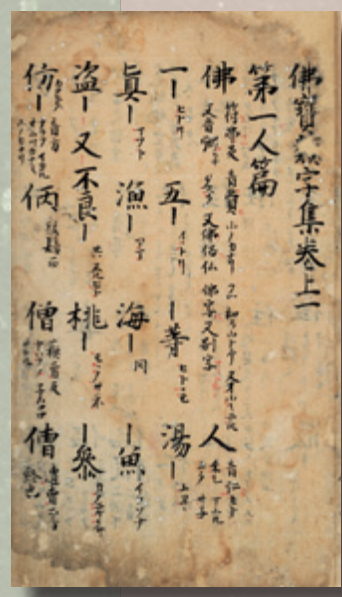
〔重要文化財〕鎌倉初期写 〔第12巻〕

世俗諺文

〔重要文化財〕鎌倉中期写 〔第12巻〕

作文大躰

あらゆる分野の日本語資料研究に必須の基本文献



Shin Tenri Toshokan Zenpon Shosho This new series offers full color, high resolution facsimiles of the special collections possessed by Tenri Central Library. The second distribution consists of six volumes of five Japanese old dictionaries copied by hand from the late Heian period to the Kamakura period. These books are considered to be indispensable basic document for various fields of Japanese studies.

高精細カラー版の威力

—新『善本叢書』第二期刊行によせて—

京都大学名誉教授 木田章義

本叢書第一期の『古語拾遺』の訓点解説を担当させていたのだが、調査はカラー版のゲラ刷りを用いた。カラー版でほとんど疑問がなく、不明瞭な所も、実物でも不明瞭だろうと推察でき、紙の質までも感じ取れるのである。何度も頁を繰り、書き込み、頁を曲げて、墨色を比較したり、原本ではできない細かな分析ができた。実を言えば、実物は解説原稿完成後に拝見したのである。初めて見る感じがなく、予想どおりの紙で、予想どおりの墨の濃淡で、原稿を修正したり、加筆する必要は全く無かった。

本叢書第二期は「古辞書」である。完本の観智院本『類聚名義抄』は、日本語の研究にとって掛けがえのない資料で、朱点によって、十一世紀から十二世紀頃の日本語のアクセント体系が復元できる。大量の和訓は、当時の語彙体系を語り、平安時代、あるいは奈良時代の作品の注釈に必須の資料となっていることもよく知られている。

旧の天理善本叢書も、当時の最高の技術で複製されていて、朱墨はかなり分別できたが、何度目をこらしても、判断できない所が多くあった。その分析はきわめて鬱陶しい作業であった。しかし、このパンフレットの見本写真を見れば分かるように、高精細のカラー版では、朱墨が重なっても、墨の上に朱が乗っているのが見える。押界も見える。紙の汚れ、簀の目も見えて、紙を縦に使っていることまで分かる。それぞれの古辞書はすでに価値の高いことは周知のことであり、その古辞書の最古の写本をカラー版で座右に備えることができるのである。これまでの白黒写真による分析は、本叢書によってかなりの修正・再考を必要とすることになるだろう。

私も声点付き語彙カードを廃棄する予定である。無念の思いを抱くが、それが時代の進化なのであろう。今度のカードは決定稿になるだろうという安心感もある。

●第9〜11巻

〔第4〜6回配本・2018年6月・8月・10月〕

〔国宝〕

類聚名義抄

観智院本

平安時代の訓読を知る最大の資料

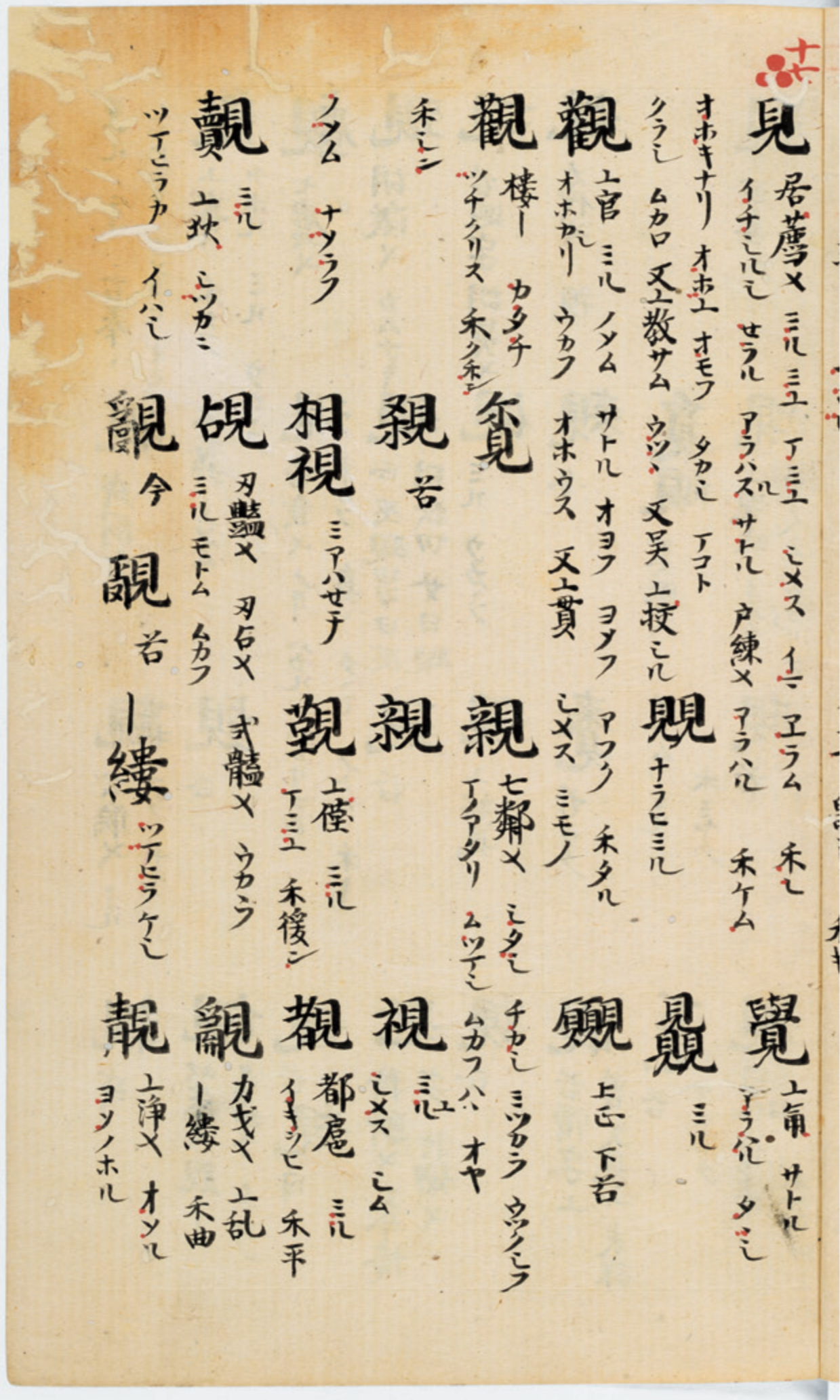
〔解題〕大槻信（京都大学教授）

鎌倉末期（十四世紀）写 十一冊

平安時代末期に編集された、漢字・漢語を編目により類聚した音訓漢和辞典で、編者は未詳。標出漢字は約三万二千語、和訓は約三万四千語、朱筆で付された声点（アクセント記号）も約一万語におよぶ大辞典で、その膨大な量の和訓は平安時代における訓読語彙の実態を知る最大の資料である。現存諸本には原撰本・改編本の二種があり、原撰本は院政期頃、法相宗関係の僧侶が撰したとされる。

所収本は改編本に属し、鎌倉時代末期の書写と考えられ、撰者は真言宗の学僧といわれる。現存する改編本の唯一の完本である。東寺観智院旧蔵、江戸時代末期に伴信友の紹介により初めて世に知られた。

本書の篇目に「朱音者正音也。墨声者和音也。片仮名有朱点者皆有證據亦有師説。無點者雑々書中随見得注付之」とあり、朱墨訓点各々の使い分けを明示している。朱・墨の別が辞書機能の一部をなう本書において、カラー版はもっとも望まれた複製である。



●第7卷 [第2回配本・2017年2月]

〔重要文化財〕

和名類聚抄

高山寺本

日本最古の分類体漢和辞書

〔解題〕 山田健三 (信州大学教授)

平安末期 (十二世紀) 写 一冊

醍醐天皇皇女勳子内親王の命により、源順(九二一―九八三)が撰述、承平年間(九三一―一三八)に成立。「和名抄」とも称され、平安期から江戸期までの長きに渡って後の多くの国内文献に引用・利用される。成立当時の国内文献である漢語抄類(「弁色立成」「楊氏漢語抄」など)をベースとしつつ、中国側の文献本文に広く徴証を求めたもので、類書形式の意義分類を施し、多くの和訓を掲載した、漢語理解のための日用百科事典的な性格をもつ。二十卷本系と十卷本系とで分類や項目に違いがあり、特に前者には国内地名など記した独自の部門が多くある。二系統の先後関係には古くより議論がある。

所収本は二十卷本系で、巻六郷里部より巻十居処部までの零本であるが、平安時代末期の書写になる伝本中最古のもので、朱声点(アクセント記号) 付き和訓も存し、カラー影印が望まれていた。高山寺旧蔵。

●第8卷 [第1回配本・2016年4月]

〔重要文化財〕

三宝類字集

高山寺本

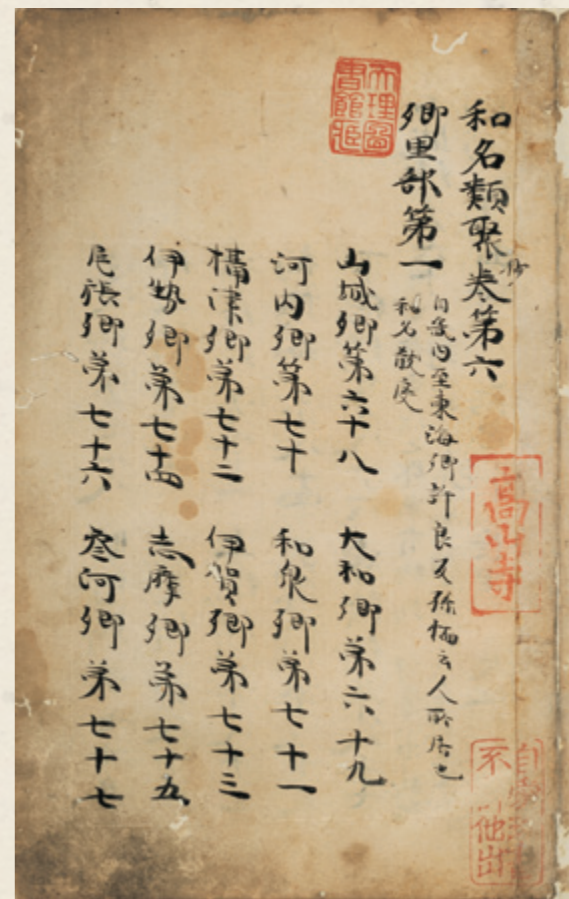
仏・法・僧の三部に大別された類別漢和字書

〔解題〕 山本秀人 (高知大学教授)

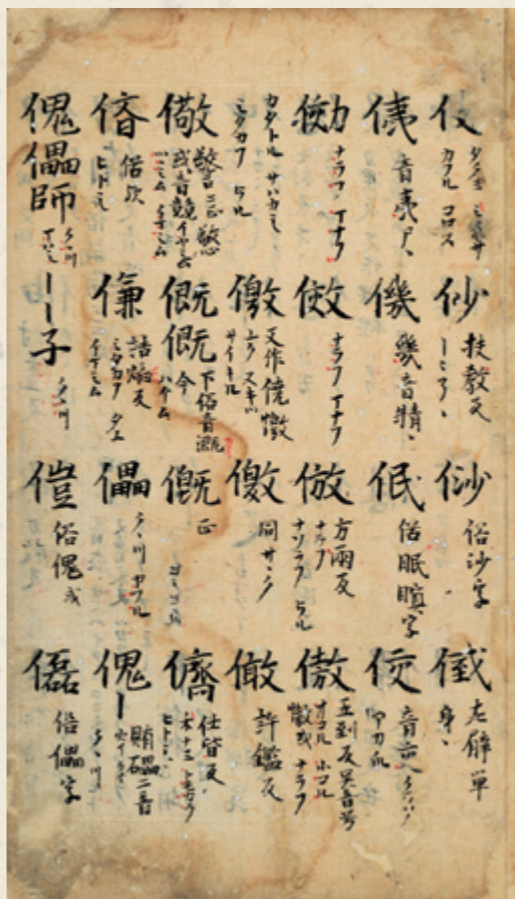
鎌倉初期 (十二・十三世紀) 写 一冊

『類聚名義抄』諸本のうちの一異本で、江戸時代末期の国学者伴信友により、高山寺本『類聚名義抄』として初めて世に紹介されたもの。撰者は未詳。

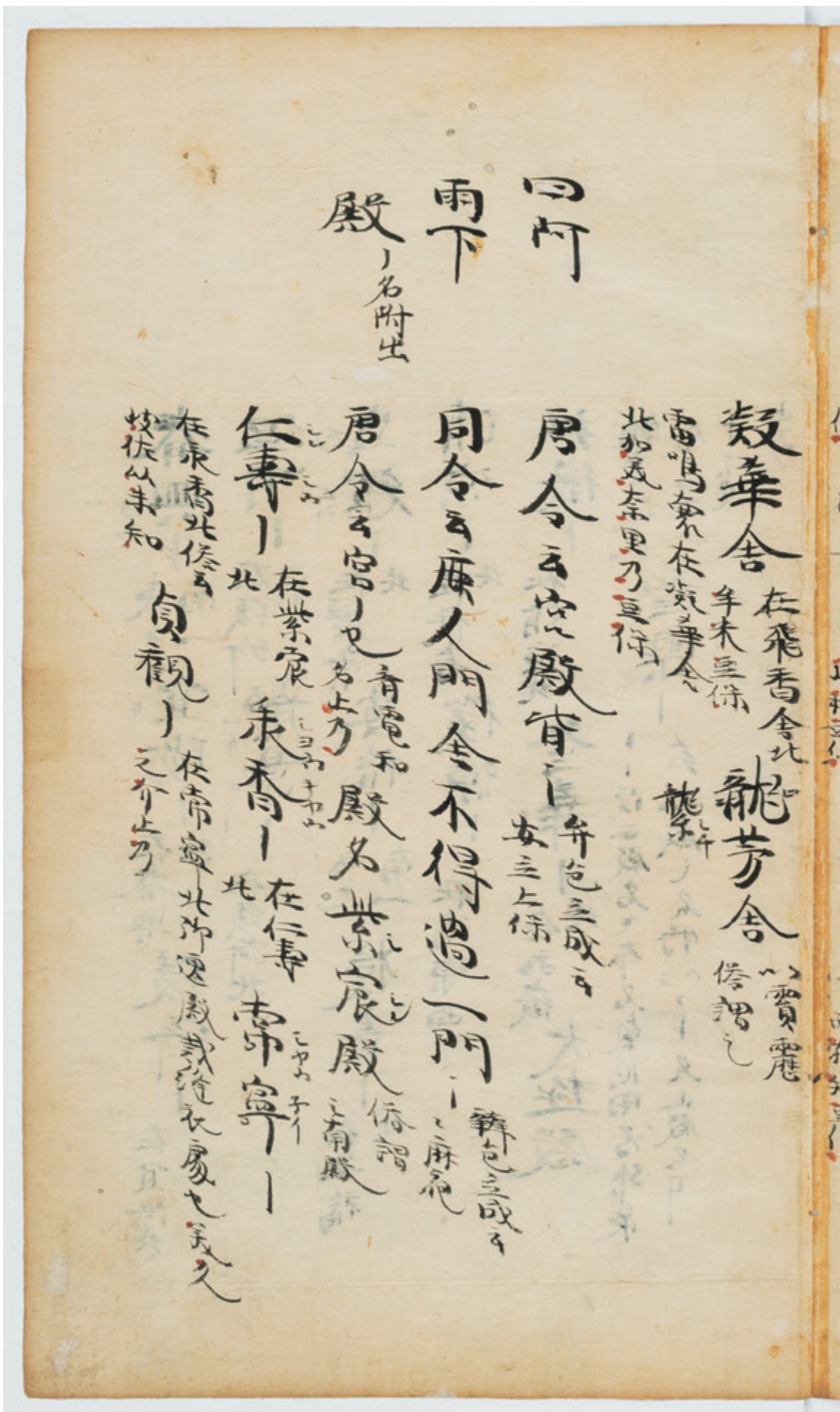
所収本は信友謄写本の原本で、高山寺に伝来。書写の年代は鎌倉初期まで遡り、名義抄諸本との比較では、独自の改変が加えられていることが注目される。現存は仏・法・僧三巻中の仏巻四十部首のうち二十部首、「法仏人篇第一」報仏女篇第二」を存し、「応仏肉篇第三」化仏木篇第四」を欠く。他に類本は知られていない。序跋その他識語に類するものを一切欠くため、筆者・指声者は明らかでない。原則として一字に反切による字音、片仮名の和訓、正俗の字体を示すが、さらに朱筆を以て字音・和訓の肩に斜線を引き、また声点を左傍に付すことが多い。カラー版によってこれらが明瞭に確認できる。



和名類聚抄 高山寺本



三宝類字集 高山寺本



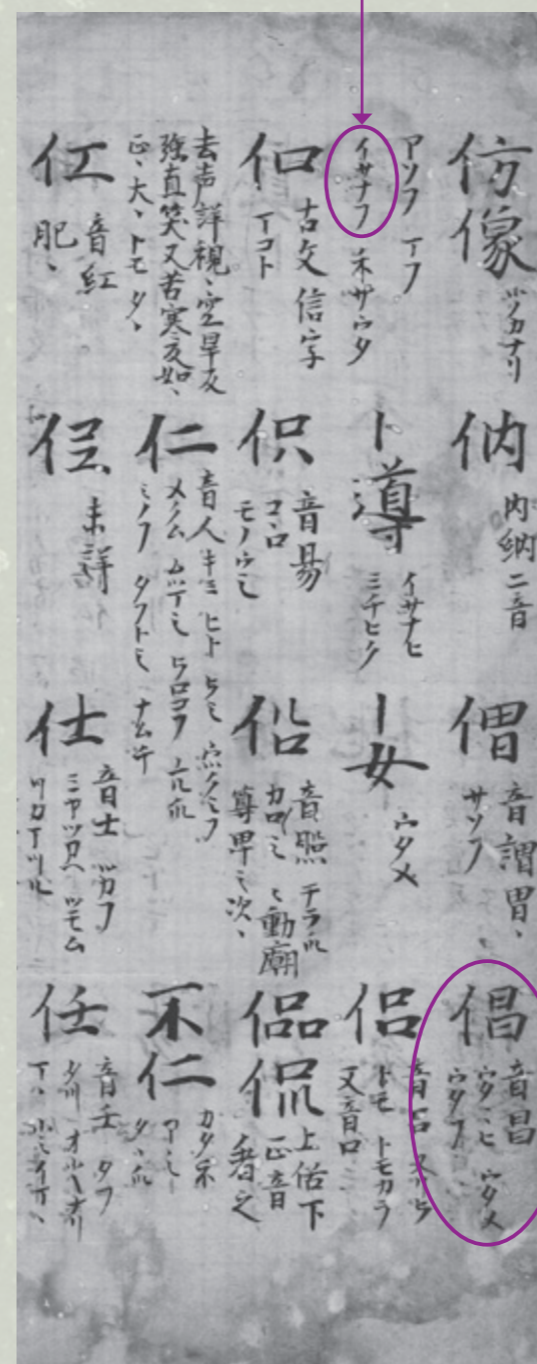
高精細カラー版について

- オールカラーの高精細画像により、旧版(単色)と比べ、豊富な原本情報を鮮明に再現。
- 墨朱濃淡、微妙な彩色、微細な訓点、料紙の紙継・補修痕、擦消し・書き込み修正など本文校訂の様相等々、細部の可読性が格段に向上。
- 電子画像と比較して、長期保存性、閲覧環境に左右されない安定性など、紙媒体ならではのメリットを生かした信頼できる画像を提供。

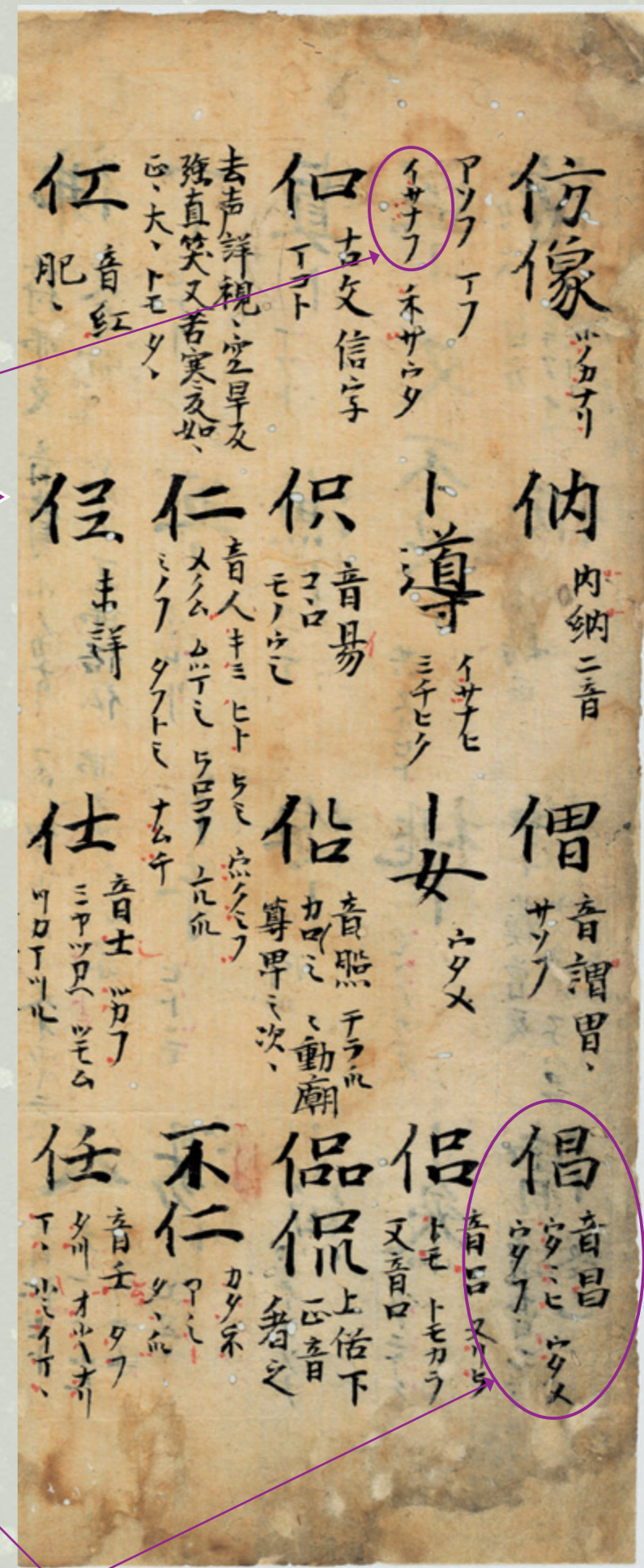
※旧版「善本叢書②」A5判 (原本からの縮率71%)

● 朱墨の判別が一目瞭然に

● 大型判型を採用 (A5判→A4判)



旧版「善本叢書②」(1971年刊)



- 薄い朱・微細な訓点等、細部の可読性が格段に向上
- 界線の描画・虫損の具合等、料紙の様相が明瞭に

●第12卷 [第3回配本・2017年10月]

〔解題〕 後藤昭雄 (大阪大学名誉教授)

〔訓点解説〕 山本真吾 (白百合女子大学教授)

〔重要文化財〕

世俗諺文

唯一伝存する現存最古の俗諺集成

鎌倉初期写 一軸

『三玉絵』『口遊』の撰者源為憲(一一〇一)が、藤原道長の長子頼通のために撰述、寛弘四年(一〇七)成立。当時流布した俗諺・成句を集め、その出典を示し、「今案」や「私云」として自らの説を付記する。百五十二門六百三十一章を上中下の三巻に所収、中下巻は伝存せず、上巻も唯一の伝本である。引証する典籍は七十余种に及び、「良業苦於口」「温故知新」等、後世長く人口に膾炙したものが少なくない。詳細な傍訓や声点が付されている。

所収本は東寺観智院に伝来した鎌倉時代初期の写本で、上巻一軸に二百二十一章を収め、本文とはほぼ同時代と思われる別筆の校異訂正を施している。

〔重要文化財〕

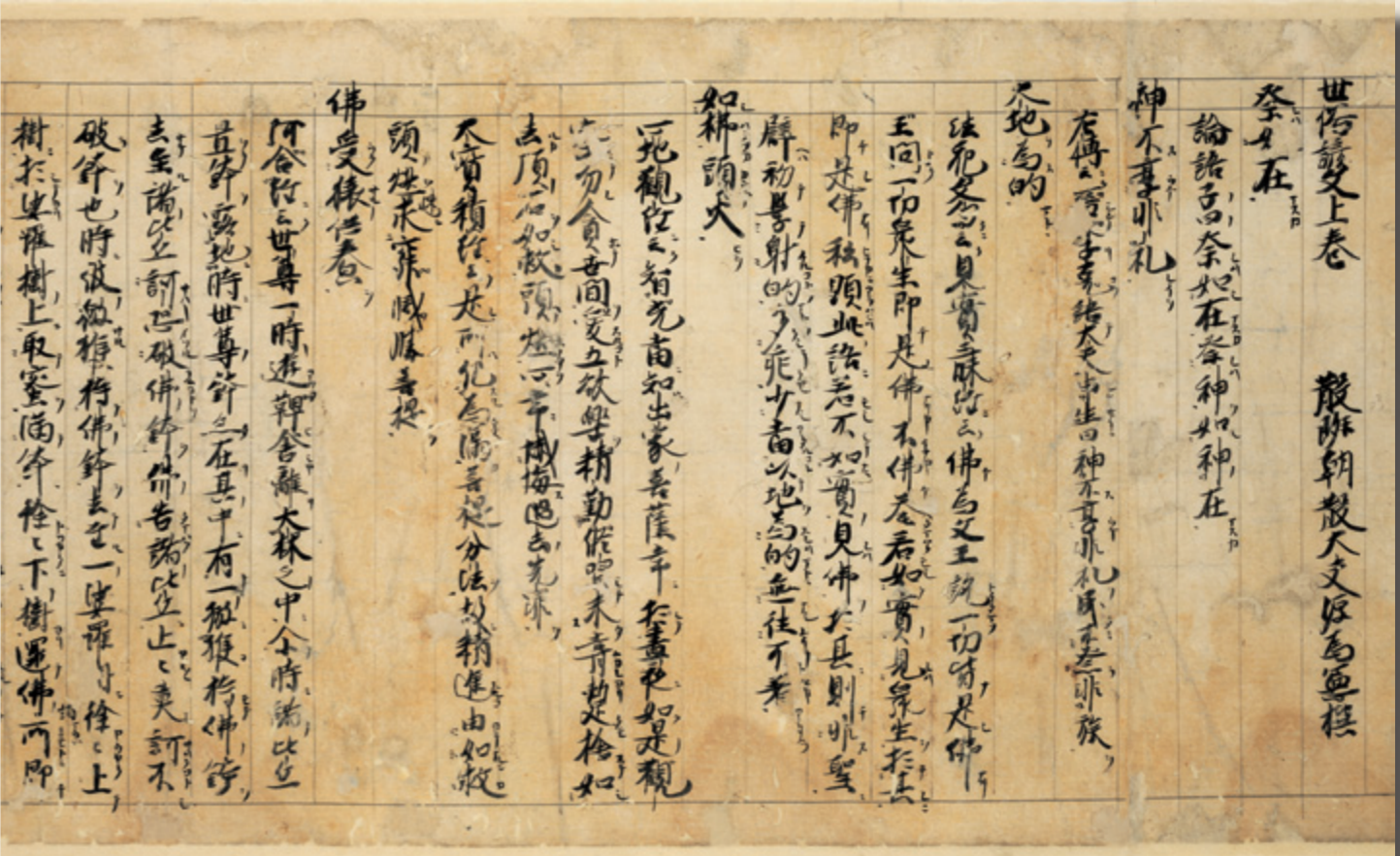
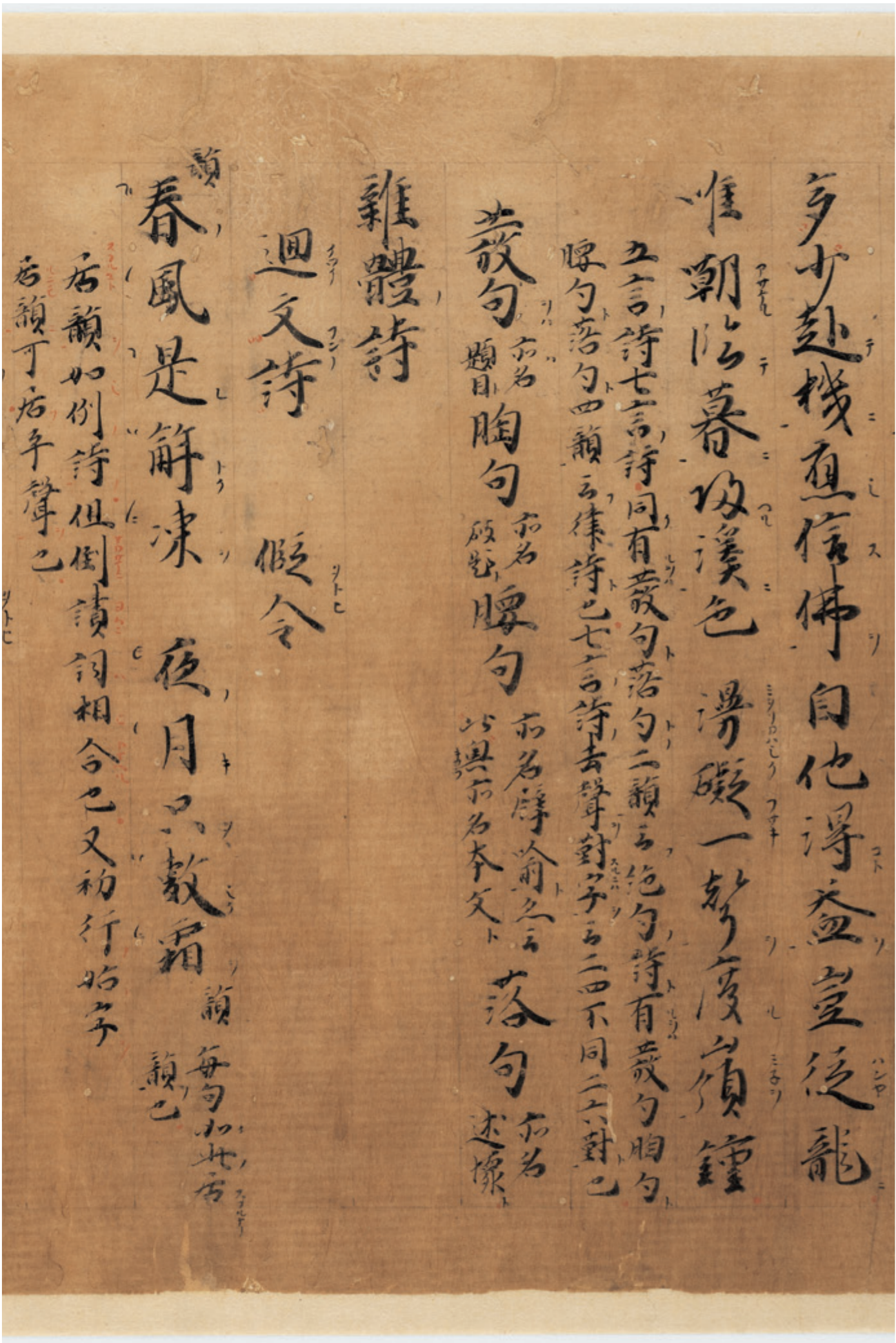
作文大躰

作文や句法の実例を示した詩文作法書

鎌倉中期(十三世紀)写 一軸

『中右記』で知られる藤原宗忠(一一〇六―一一四二)等の編になる詩文作法書。平安時代中期の成立とされるが、室町時代末期頃まで幾度か増補改編された。文を題目・比喻・詩賦等に、また筆(散文)を詔・檄・奏等の諸体に分けて、作文の作法や文筆の句法を実例を以て示し、作詩や四六文を作る参考とした。

所収本は東寺観智院所伝、鎌倉時代中期の書写になり、国訓・送り仮名を加え、上欄外には朱注がある。もと二巻で、うち下巻を欠いて上巻一軸。『作文大躰』諸本の源流に位置するもので、成立時の古態を留めており資料的価値は高い。



刊行の辞

天理図書館は、本教がひろく典籍・文献類の蒐集を通して、道をひろめ、人を育て、世界文化に貢献することをめざして創設されたものであります。昭和五年の開館当初は、宗教・思想・言語等の諸分野からはじまったものが、次第に歴史・文学・社会・諸芸能などにおよび、これらの上に、戦後、種々の機会に収蔵された世界的善籍・稀覯書を累加して、古今にわたる文化資料の集成を見るにいたりました。

本館は、創設者である天理教二代真柱中山正善の志を継ぎ、保存、活用を体して、これまでも種々の複製事業を行ってまいりました。中でも、その画期的事業と申すべきものが、昭和四十六年十一月、二代真柱の命日を以って刊行を開始いたしました『善本叢書』和書之部全八十巻、漢籍之部全十二巻、洋書之部全四十八巻であり、その後の『綿屋文庫併書集成』全三十六巻に及ぶ出版でありました。

これらの影印本は、その刊行以来、各方面において活用いただいておりますが、すでに三十数年の歳月を経、近年、影印複製技術の急速な進歩により、高精細フルカラーによる影印本の刊行が、各方面から求められるにいたりました。

此の度、既『善本叢書』中から、ことにフルカラーの情報が必要とされております史籍・古辞書類、古奈良絵本類を選び、また、未だ刊行を見合わせておりましたその他の奈良絵本類、及び、藤原定家・芭蕉・西鶴の自筆類等々を選んで、『新善本叢書』全三十六巻として刊行をいたす次第であります。前回と同じく、製作発売・八木書店、製版印刷・天理時報社と共に、本事業を開始できますことを心から感謝いたします。

各方面の皆様にご利用されますことをお願い申して、刊行の辞といたします。

平成二十六年十一月

天理図書館長 諸井慶一郎



●最新の印刷機
KOMORI LITHRONE G40

印刷・造本

高精度のデジタル撮影

◆高精度デジタル撮影（約2,230万画素）による画像データを使用し、可能な限り豊富な原本情報の再現を図る。

最新技術による最高度の製版・印刷

◆製版は、高精細イクオス・スーパーセル（260線）を採用。
◆印刷は、ハイブリッドUVシステムで厳密に色再現。



●ハイブリッドUVシステムのコントロールパネル

厳密な校正点検

◆製版された画像データを用いて、小社編集部がDTPソフトでトリミング・柱の掲出・紙数表示等の割付を行い、ページアップ校正を出校、天理図書館担当者・解題執筆者が確認を行う。
◆色校正に際しては、原本と照合点検の上、その再現に厳密を期する。

印刷立会いによる最終チェック

◆印刷時には、天理図書館担当者・小社編集担当者が立会い、各台（8頁もしくは16頁毎）刷り出し時の版面点検・色調整、印刷時の抜取り検査等を厳格に行う。

●印刷立会い 刷り出しのチェック



技術的研鑽を重ねた印刷所

◆製版・印刷は、「天理図書館善本叢書」「正倉院古文書影印集成」「尊経閣善本影印集成」等で、技術的な研鑽を重ね、優秀な実績を積んでいる天理時報社が担当。

カラー影印に最適な用紙

◆カラー版オフセット印刷に適し、かつ原本の風合いを生かせるよう光沢を抑えた高級微塗工紙（中性紙）を使用。

堅牢な製本

◆糸かがり、上製クロス装とし、堅牢にして日常の連用・長期保存に耐える製本とする。



天理図書館 正面と貴重書庫

天理図書館について

大正十四年（一九二五）三月、中山正善天理教二代真柱によって、本教の総合図書館設立が計画された。翌十五年十一月、約二万六千冊をもって閲覧を開始、その後、昭和五年に現天理図書館本館が竣工し、現在の活動の第一歩が踏み出された。以来、満十五歳以上のすべての人々に広く公開して、天理大学付属図書館であると同時に、宗教研究・一般学術研究の専門図書館として様々な活動を続けている。現在の蔵書数は約二百萬冊。宗教学・東洋学・オリエント学・民俗学・地理学・言語学、中でも国文学等において精選された資料の蒐集を続け、これらの分野では極めて貴重な文献を数多く所蔵している。

こうした所蔵資料の公開・利用のために、一般蔵書目録の他にも、各種の貴重書目録・主題目録、また、貴重資料の影印複製・各種図録類を刊行。館報『ピブリア』（現在、第14号）では、所蔵資料の紹介・翻刻等を行っている。

編集方針

新編集による高精細カラー版

◆「天理図書館善本叢書」和書之部（1971～1986）刊行後の研究進展・印刷技術の発展を鑑み、時代に即した新編集で「新天理図書館善本叢書」を刊行する。
◆天理図書館所蔵の和書の中から、主に国史・国語・国文に関する資料的価値の高い善本を選択し、高精細カラー版オフセット印刷により影印する。
◆収録候補に上がった書目を、時代別・分野別に分類し、両者を総合して数期に分け、逐次上梓する。

カラー版に向く貴重書を精選

◆選択する底本は、伝本中、一の基準を代表する優品であると共に、特にカラー版影印によって学界に裨益する内容であることを期する。
◆新資料の紹介はもちろん、かつて複製されたものであっても、カラー版の大型判型によって更なる原本情報を提供できるものは、これを加える。

利用しやすい編成と編集

◆判型は、原本の形態に応じて菊倍判・A4判（縦横）・B5判・A5判を適宜採用し、各判型毎に利用しやすい頁数を考慮の上、類聚ないしは分冊編成する。
◆影印本文の各頁には書名・巻次・項目名等の柱を掲出し、卷子本の紙数・冊子本の丁付を本文下欄に表示し、利用の便を図る。

解題は全て新規書き下ろし

◆解題は、簡明にして正確な記述に主眼を置き、各書目について専門的知見を有する研究者へ依頼する。
◆「善本叢書」既収録の書目についても、旧版刊行後の研究進展による旧解題内容の修正、および新たな知見などを加味した新規解題を収載する。
◆調点が多数施されている書目については、解題に加え、専門研究者による調点解説を収載する。

高精細オールカラーの大型判で豊富な原本情報を鮮明に再現！



高精細カラー版

第一期 古辞書 全六巻 配本予定

ISBN978-4-8406-9592-3 (ハード)

第1回配本 [平成28年(2016)4月] A4判/約二四〇頁/本体予価三二、〇〇〇円

第8巻 三宝類字集 高山寺本 ※各巻ISBN付 (9558.9)

第2回配本 [平成29年(2017)2月] A4判/約二六〇頁/本体予価三二、〇〇〇円

第7巻 和名類聚抄 高山寺本 (9557.2)

第3回配本 [平成29年(2017)10月] A4判/約二三〇頁/本体予価三〇、〇〇〇円

第12巻 世俗諺文作文大牀 (9562.6)

第4回配本 [平成30年(2018)6月] A4判/約四七〇頁/本体予価四五、〇〇〇円

第9巻 類聚名義抄 観智院本 一仏 (9559.6)

第5回配本 [平成30年(2018)8月] A4判/約四五〇頁/本体予価四五、〇〇〇円

第10巻 類聚名義抄 観智院本 二法 (9560.2)

第6回配本 [平成30年(2018)10月] A4判/約四六〇頁/本体予価四五、〇〇〇円

第11巻 類聚名義抄 観智院本 三僧 (9561.9)

古典研究者・図書館必備の新シリーズ！

【ご購入の案内】第2期 2016年4月刊行開始！

- 造本 A4判/上製本/クロス装/貼函入/平均350頁予定
- 製版・印刷 イクオス・スーパーセル260線/ハイブリッドUVシステム
- 配本 上記参照(第2期・第3期は並行して刊行し、配本間隔は変則となります)
- 定価 第2期全6巻セット予価(本体228,000円+税)
- 各巻分売可 第2期平均予価(本体38,000円+税)

シリーズ各期ご案内



● 既刊 *分売いたします*

【第一期】国史古記録 全六巻 二〇一六年二月完結！

第1巻 古事記 道果本 播磨国風土記 菊倍判/二〇〇頁/本体二六、〇〇〇円

第2巻 日本書紀 乾元本 一 神代上 菊倍判/一八四頁/本体二九、〇〇〇円

第3巻 日本書紀 乾元本 二 神代下 菊倍判/一六八頁/本体二九、〇〇〇円

第4巻 古語拾遺 嘉禄本・暦仁本 菊倍判/一六〇頁/本体二五、〇〇〇円

第5巻 明月記 A4判横本/一七〇頁/本体二七、〇〇〇円

第6巻 定家筆古記録 A4判横本/二三四頁/本体二九、〇〇〇円

● 続刊 *予約募集中！*

【第三期】源氏物語 全十巻 二〇一六年六月刊行開始

【第四期】奈良絵本 全八巻 二〇一八年十二月刊行開始

【第五期】連歌俳諧 全六巻 二〇二〇年四月刊行開始



【発売】 八木書店 YAGI BOOK STORE LTD.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
 ● TEL 03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ● FAX 03-3291-6300
 ● E-mail pub@books-yagi.co.jp ● Web http://www.books-yagi.co.jp/pub